

おすすめの社史をご紹介します！



みなさん、社史を読んだことはありますか？普段あまり手に取ることはないと思います。社史は分厚くて堅苦しい内容の読み物というイメージがあると思いますが、近年は装丁にこだわっているものや、読みやすいように工夫して編集されているものもあり、面白いです！気になるものがあれば、ぜひ手に取ってみてください。いずれも貸出可能です。



棟梁から総合建設業へ 清水建設 200年の歴史

清水建設株式会社 編集 2003年

資料番号:1108424032

請求記号:ヒク 510.67/シミ/842403



江戸時代に1人の大工から始まり、創業200年以上が経つ清水建設。その歴史を時代に沿って振り返りつつ、各時代の大きな出来事とその中での清水建設の働きやプロジェクトについてそれぞれ解説しており、読みやすくまとめられています。宇宙ホテルや未来都市シミュレーションなどはまさにロマン溢れるSFの世界！建設業界に興味のない方にもオススメできる、読み物としても楽しめる1冊です。

京王の電車・バス 100年のあゆみ 1913-2013

京王電鉄株式会社広報部 発行 2013年

資料番号:1111734117

請求記号:ヒク 686.06/ケイ/1173411



全ページほぼ写真図版で構成された、見て楽しめる社史です。京王電鉄の開通は大正2年、開業当時の玉南電気鉄道1形や調布駅の駅舎。昭和初期の新宿駅。懐かしい昭和時代の駅ホームの伝言板(黒板)や改札など、東京の人でなくても共感できます。もちろん100年間の歴代車両とバスも網羅しています。さらに、付録のDVD-ROMには、懐かしい車両、制帽・制服・用具・機械等も入っています。(付録DVD-ROM(1枚 12cm)は館内で閲覧してください)



トンボ鉛筆 100 年史

トンボ鉛筆 100 周年記念事業委員 編集 2013 年

資料番号:1111471025

請求記号:ヒク 589.73/トン/1147102



明治 5 年明治政府が教育令を発し新しい学校制度になって以降、それまで使われていた半紙、筆、硯から、ノート、鉛筆、ペンと便利な新しい筆記用具が急速に使われるようになりました。当初は欧米の輸入品です。のちにトンボ鉛筆の前身、小川春之助商店を開業する春之助は、日本橋の「四方文具」(墨、筆、硯、半紙)を扱う文具問屋で商いを修得した後、父作太郎が研究していた国産鉛筆作りを支えました。春之助は和洋文具に精通した仲買業として信用を築き、1913 年独立して小川春之助商店を開業、以後「銘柄鉛筆」と呼ぶ独自の路線で次々と企画、商品化しました。

初の多角化事業で油性ボールペン「クラウトンボ」を発売、王子工場を鉛筆専用、第 2 の工場はボールペン専用として愛知県新城市に新設しました。

トンボは 1963 年、9H から 6B まで 17 硬度を揃えた最高級鉛筆「MONO」を発売します。その後、1971 年に国産初の口紅型固形のり「ピット」を発売し新分野に進出。1969 年に「MONO 消しゴム」を単独発売して大ヒットしました。

トンボの広告コピーも独自路線で読み応えがあります。

新たな SEED を求めて 100year 1915-2015 history of the SEED

出版文化社 編集 2015 年

資料番号:1111580558

請求記号:ヒク 589.73/シ/1158055



誰もが持ったことのある、あのブルーのケースの消しゴムの会社です。始まりは大正時代、字消しゴムとゴム粘土を製造販売するゴム製作所。創業当時の消しゴムは直に SEED 等の英字が印字されて洋風でした。Radar の白抜き文字とブルーのケースに入るのは、1965 年頃から主流になったプラスチック消しゴムを新商品として発売するところからでした。安くてよく消えるレーダーは『暮らしの手帖』で絶賛され大ヒット商品となり、シードゴム工業は消しゴム業界のトップメーカーとなりました。良い時代ばかりではなく、オイルショックによる原材料の高騰に苦しむことも。厳しい時代でも練り消しゴムや修正テープを発売したり、海外に工場を建設したり、常に挑戦してきた歴史がありました。本冊は白、ブックケースはブルーに白抜き文字の Radar SEED 柄！まるで消しゴムです。



ニチバン 100 年史

100 周年事業推進プロジェクト年史・アーカイブ分科会

『ニチバン 100 年史』編纂チーム 編集 2019 年

資料番号:1111680713

請求記号:ヒク 579.1/ニチ/1168071

※写真だと表紙は赤色の無地に見えますが、透明の厚盛ニスで社名ロゴが施されている
お洒落な装丁です！



セロテープでおなじみのニチバン、テレビでセロテープ製造の様子を見たことがある方も多いと思います。セロテープの工場が県内安城市にあることから、中部地方にとって身近に感じる企業です。創業は大正 7 年、東京南品川の歌橋製薬所、軟膏や硬膏、絆創膏製造事業です。以来時代に合わせ事業を展開し、戦後すぐにセロハン粘着テープを開発し「セロテープ」として販売。戦後の文具商 3 大商品となり、以後文具業界にも事業を拡大します。その一方で、創業時からの絆創膏事業は更に発展しサージカルテープ商品の開発に繋がっていきます。暮らしに欠かせない数々の商品を開発した大企業の詳細な社史です。

また、『ニチバン 80 年史』も所蔵しています。こちらは時代背景とともに壮大な歴史書のようなのです。

(ニチバン社史編纂委員会 編集 1999 年発行 資料番号:1107780820)

六甲バター70 周年記念誌

六甲バター株式会社編集 編集 2019 年

資料番号:1111727794

請求記号:ヒク 648.18/ロツ/1172779



Q・B・B チーズでおなじみの六甲バターの創業からの歴史がわかりやく記されています。始まりは戦後間もないころ、日本に馴染みのないマーガリンを「マーガリン六甲バター」の商品名で発売した平和油脂工業でした。発売後も順調だったわけではありませんが、この会社らしいアイデアで小型マーガリンをヒットさせます。家庭用小型マーガリンにより商品名が広く認知されて、社名を六甲バターに変更しました。時代に合わせ挑戦を続け、オーストラリアの乳製品公団(Q・B・B)と提携し、原材料を輸入して加工するプロセスチーズを始めます。ウインナーソーセージをヒントにスティックチーズを発売して大ヒット商品をつくりました。家庭で購入しやすい価格のベビーチーズ、スライスチーズも日本初の商品でした。この社史の面白いところは、失敗も全てに記載していることです。チーズ発売当初にカビで返品になったことや、新規事業の純果糖、ペットフードは早々に撤退したことなど。読み物としても楽しめます。



ヤマハ草創譜 洋楽事始から昭和中期までの 70 年余をふりかえる 1885-1959

三浦啓市 著 按可社 2012 年

資料番号:1110985300

請求記号:ヒク 582.7/ミウ/1098530



世界最大の総合楽器メーカーと言われるヤマハの歴史をたどります。創業者山葉寅楠による明治中期のオルガン製造開始から、ピアノ、ハーモニカの国産化を経て、戦後の電子オルガン(エレクトーン)の開発に至る歴史を豊富な写真を交えて解説しており、近代日本の楽器製造の歴史を知り先人の苦勞をしのぶことができます。巻末の各年代のオルガン、ピアノの製品一覧も興味深い内容です。戦後の一時期、世界最小のメダルハーモニカを発売し、浜松駅のホームで女性販売員により駅弁のように売られていたなど、おもしろいエピソードも多数紹介しています！

安井タンス店からファニチャードーム新たな時代へ 安井家具株式会社 100 周年記念誌

安井家具 100 周年記念誌編纂委員会 編集 2014 年

資料番号:1111432330

請求記号:ヒク 583.7/ヤス/11143233



外人マネキン家族の「オー！マイキー！」CM が印象的なファニチャードームは、郷土の企業です。現在も名古屋市大須の裏門前町は家具店と仏壇店が集まる地ですが、大正 3 年安井タンス店はその隣、まだ拓けていない矢場町に裸一貫で創業しました。時代は第一次大戦後の好景気、創業者がタンスを製造販売し、腕の良さと夫婦の真面目な仕事ぶりで信頼を得ます。2 代目の兄弟も協力し「家具業界の檜舞台」と言われた大須裏門前町に移転を果たします。が、そこから苦難の時代へ。創業者が急逝(48 歳)。第二次世界大戦が始まり兄弟に召集令状が届き兄弟は出征、母と妻子が疎開した直後、名古屋大空襲により安井タンス店は焼失してしまいました。戦後帰還した兄弟は力を合わせて再興し、業績を伸ばして、1960 年に安井家具と社名変更します。兄弟は名古屋の家具、婚礼家具を全国に広める意気込みで業績を大きく伸ばしました。名古屋の古写真とともに楽しめる社史です。

また、物語として読める『ファニチャードーム物語 安井家具百年の歴史』もあります。津田一孝著